

オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く(100)(HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(100)—

1. 始めに

前報(99)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

試聴システムは仮想アースに加えて、スピーカーアキュライザーSPA-7 が加わっています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回は協奏曲です。

Columbia(EMI) OS-3099

モーツアルト ホルン協奏曲 1 番～4 番

アラン・シヴィル (ホルン)

オットー・クレンペラー指揮フィルハーモニー管弦楽団

3. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

EMI 収録の Columbia 盤ということで、EMI と Columbia、逆相、第 4 時定数 High で聴いていきましたが、EMI カーブの方が音の焦点があっています。

モーツアルトのホルン協奏曲の全曲が聴けるとあって期待して聴き始めましたが、盤質が悪く、ノイズが大きいので途中であきらめました。両面とも同じような状態で、盤の傷というよりはプレスミスのような感じがしています。

4. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、Crystal E、スピーカーアキュライザーなどの総合的な効果は、盤質が悪く上記の盤の特徴が把握できませんでした。

以上/